

議事

(1) 職員アンケートや推進委員の意見に基づく課題について（グループワーク）

①目的、内容

第3次行財政改革大綱では、全ての課題に取り組もうとして、結果として全体の進捗が遅れています。そこで、柳川市が抱えている課題に優先順位を付け、優先順位の高いものから取り組むことで、次の大綱を確実に進めようというものです。

また今回順位付けされた課題を基に、今後、解決策を検討し、次回以降の推進委員会で提示します。

②題材

- ・職員アンケートや職員ワーキングチームの会議、総合計画、推進委員会で出た意見などをもとに抽出した31の課題

1	行財政改革が職員に知られていない	17	日常業務に追われ、改革改善まで手が回らない
2	職員が市民協働を理解していない	18	特定の部署、係、人、時期などに仕事が偏っている
3	職員が仕事の目的を考えずに前例踏襲で行っていることが多い	19	頑張っている職員が報われない
4	職員が検討ばかりで行動に移せない	20	事務の引き継ぎが上手くいっていない
5	人材育成に計画性がない	21	アウトソーシングや電算化など新たな手法が検討されていない
6	職員の質が低下している	22	職場で話し合う場がない
7	取捨選択をせずに、一律カットで事業費を削減している	23	庁内の情報共有ができていない
8	補助金の見直しが行われていない	24	方針に沿った機構改革をしていない
9	扶助費が増大している	25	施設の減免制度の敷居が低すぎる
10	自主財源が少ない	26	公共施設の統廃合が進んでいない
11	人口減により、税収減が見込まれる	27	公共施設の維持管理のコストが増えている
12	市の財政状況が分かりにくい	28	施設利用者が限られている
13	行政からの一方的な情報提供になっている	29	庁舎が分かれていて不便
14	委員会の委員が同じ人ばかりになっている	30	窓口相談ではプライベートが守られない
15	市民と話し合う場がない	31	統計情報を上手く活用できていない
16	市の経営方針が明確に見えない		

③方法

- ・職員も含め3グループに別れ、意見を出し合い、順位付けを行います。

		所属機関・団体等	氏名	備考
A	1	柳川商工会議所 専務理事	古賀 政文	
	2	武松優税理士事務所	武松 優	
	3	(株)御花 代表取締役社長	立花 千月香	
	4	コミュニティコミュニケーション・サポートセンター 代表理事	椿原 恵	
	5	公募委員	松村 美由紀	
	6	人事秘書課職員		
	7	職員ワーキングチーム		
B	1	九州大学大学院法学研究院 教授	出水 薫	
	2	柳川市商工会 女性部 副部長	小柳 浩子	
	3	特定非営利活動法人とす市民活動ネットワーク 代表理事	鈴木 登美子	
	4	(株)コトブキヤ 代表取締役社長	戸田 昇	
	5	元有明新報 総局長	富安 龍介	
	6	財政課職員		
	7	職員ワーキングチーム		
C	1	柳川農業協同組合 代表理事専務	新谷 一廣	
	2	(有)ブランドゥ 代表取締役	十時 裕	
	3	元市民レポーター	原田 由美子	
	4	福岡銀行 柳川支店 副支店長	武藤 恵	
	5	総務課職員		
	6	職員ワーキングチーム		

- ・話し合いの時間は 分 (午前 時 分まで)。
- ・順位付け後、グループごとに10分程度で発表し、情報共有を行います。

④ルール

- ・課題の緊急性や重要性、効果性、難易度などを加味して順位を付けてください。
- ・意見はできるだけ残してください。

70B-70A

STEP 2

N-15 市民と話し合う場がない

N-13 行政からの一方的な情報提供になっている

N-2 職員が市民協働を理解していない

N-10 市の経営方針が明確に見えない

N-12 市の財政状況が分かりにくい

N-3 職員が仕事の目的を充分に前例踏襲で行っていないことが多い

N-7 取捨選択をせず、一律カットで事業費を削減している

N-22 職場で話し合う場がない

N-4 職員が役割ばかりで行動に移せない

N-17 日常業務に追われ、改革改善まで手が回らない

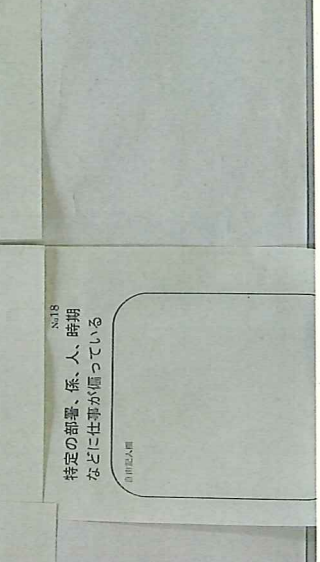
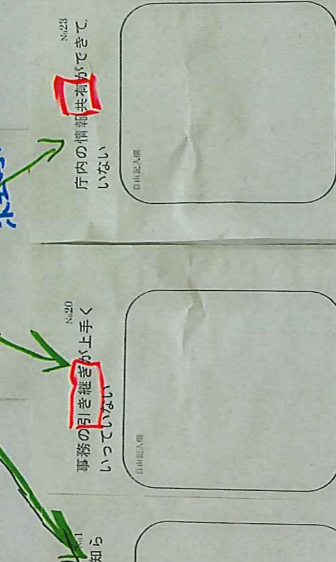
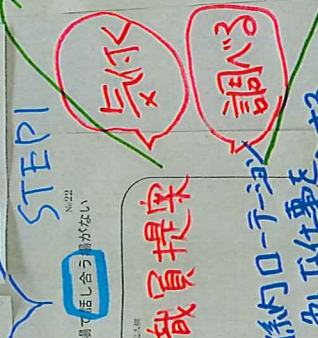
N-11 行財政改革が職員に知られていない

N-20 事務の目き雑音が上手くない

N-23 庁内の情報共有ができていない

N-24 方針に沿った機構改革をしていない

N-18 特定の部署、係、人、時期などに仕事が偏っている



重要度(高)

頑張っている職員が働かれない

方針に沿った機構改革をしていない

行政改革が職員に知られていない

扶助費が増大している

自主財源が少ない

人口減により、税収減が見込まれる

市の経営方針が明確に見えない

職員が検閲ばかりで行動に移せない

施設の種類制度の敷居が低すぎる

施設利用者が限られている

公共施設の維持管理のコストが増えている

競争合が進んでいない

窓口相談ではプライバシーベクトルが守られない

市の財政状況が分かりにくい

庁舎が分かれていて不便

職場で話し合う場がない

庁内の情報共有ができていない

重要度(低)

委員会の委員が同じ人ばかりになっている

行政からの一方的な情報提供になっている

アウトソーシングや電算化など新たな手法が検討されていない

日常業務に追われ、改革改善で手が回らない

取締役選任をせずに、一律力ツツで事業費を削減している

職員が市民協働を理解していない

市民と話し合う場がない

職員が仕事の目的を考えずに前例踏襲で行っていることが多い

補助金の見直しが行われていない

特定の部署、係、人、時期などに仕事が偏っている

人材育成に計画性がない

緊急度(高)

緊急度(低)

Aグループ